

IV-72

岩手県内の主要「道の駅」を対象とした利用者の意識について

岩手大学 正 員 安藤 昭
 岩手大学 ○学生員 小泉和宏
 岩手大学 正 員 佐々木栄洋
 岩手大学 正 員 赤谷隆一

1. 研究の背景と目的

道の駅制度が平成5年に発足して以来、全国的に道の駅の整備・登録が計られてきた。平成12年10月時点での全国の道の駅の登録数は612ヶ所（オープン準備段階43ヶ所を含む）であり、内岩手県内の道の駅の登録数は21ヶ所（オープン準備段階1ヶ所を含む）である。道の駅制度の発足以来、徐々に登録数は増加しているが一方では既存の道の駅間での格差が生じ、整備の遅れる道の駅の見直し・再整備が必要とされているのが現状である。更に今後、道の駅の登録数は増加する事が予想されている。

本研究では、岩手県内の道の駅が兼ね備える特性を明確にした後、利用者の意識を明らかにする事で利用者のニーズに答えるべく道の駅像を明らかにする事を目的とする。

2. 調査概要及び調査結果

(1) 道の駅の現況調査概要

岩手県内の各々の道の駅の特性・現況を把握する事を目的に現況調査を行った。対象はオープンしてから1年以上が経過している岩手県内の道の駅17ヶ所である。その後17ヶ所の道の駅を特性別に分類し、沿線の交通量や現況との兼ね合いを考慮し、本研究の対象となる道の駅を選定する。尚、調査期間は平成12年8月3日～5日で道の駅駅長もしくは管理者に、直接ヒアリング調査を行った。

(2) 現況調査結果

岩手県内の道の駅を現況調査及び先行研究¹⁾から検討した結果、道の駅及び道の駅と一体的に整備された周辺施設により、岩手県の道の駅の特性を、風景観賞、レクリエーション、販売、歴史、体験、スポーツ、文化の7つに分類することができた。

そこで、この7つの特性を基に、岩手県内の17道の駅を分類したところ、図-1に示す結果が得られた。図-1より17道の駅中8ヶ所が販売のみの特性を示している。すべての特性をもっている道の駅はないが、石鳥谷は風景観賞を除く6つ、おおのは文化を除く6つの特性をもっていることが明らかとなった。

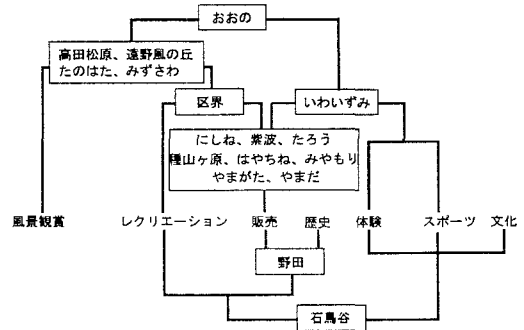


図-1 岩手県内の道の駅分類図

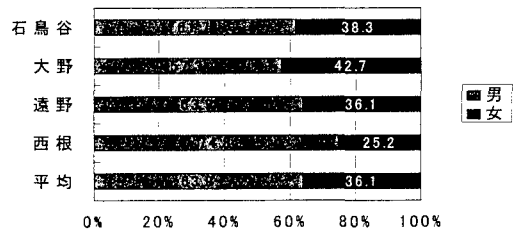


図-2 アンケート回答者の男女別構成率（%）

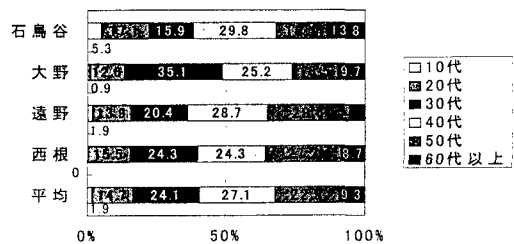


図-3 アンケート回答者の年代別構成率（%）

(3) 利用者の意識と利用実態に関する調査概要

図-1に示された道の駅の特性から、本研究において、利用者意識調査の対象道の駅を「石鳥谷」「おおの」「遠野風の丘」「にしね」に選定した。この選定した4ヶ所の道の駅の利用者を対象にアンケート調査を行った。調査項目は、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能、立地、付属施設、利用全般に関するものである。期間は平成13年1月12日～27日である。

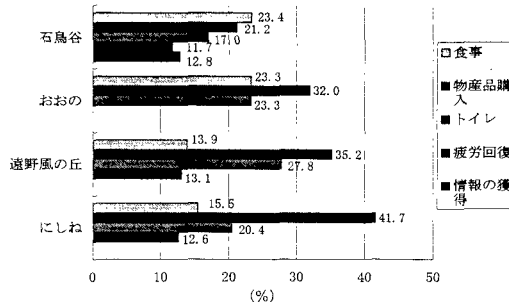


図-4 道の駅利用において重要視されている項目

表-2 「石鳥谷」における結果

	第1位	第2位	第3位
食堂に関して	料理の美味しさ	食堂の広さ	メニューの種類
販売店に関して	販売品の種類	販売品の値段	利用できる時間帯
トイレに関して	トイレの清潔さ	トイレの数	障害者トイレの整備
休憩室に関して	休憩室を利用できる時間帯	喫煙コーナー等の配慮	休憩室の広さ
情報発信に関して	周辺地域の歴史・文化の紹介	周辺観光地の紹介	地域の特産物の紹介

表-3 「おおの」における結果

	第1位	第2位	第3位
食堂に関して	食堂の広さ	料理の美味しさ	料理の値段
販売店に関して	販売品の種類	販売品の値段	販売店を利用できる時間帯
トイレに関して	トイレの数	トイレの清潔さ	障害者用トイレの整備

表-4 「遠野風の丘」における結果

	第1位	第2位	第3位
食堂に関して	食堂の広さ	メニューの種類	料理の美味しさ
販売店に関して	販売品の種類	販売品の値段	販売店を利用できる時間帯
トイレに関して	トイレの清潔さ	トイレの数	障害者トイレの配慮
休憩室に関して	休憩室の広さ	休憩室の整備状況	喫煙コーナー等の配慮

表-5 「にしね」における結果

	第1位	第2位	第3位
食堂に関して	食堂の広さ	メニューの種類	料理の美味しさ
販売店に関して	販売品の種類	販売品の値段	販売店を利用できる時間帯
トイレに関して	トイレの清潔さ	トイレの数	障害者トイレの整備
休憩室に関して	休憩室の広さ	休憩室の整備状況	休憩室を利用できる時間帯

(4) 利用者の意識と利用実態に関する調査結果

①調査結果概要

各道の駅で回収した有効アンケート票数の合計は408票（石鳥谷94票、おおの103票、遠野風の丘108票、にしね103票）であり、回答者の男女別構成率を図-2、回答者の年代別構成率を図-3に示す。

図-4から石鳥谷を除く3つの道の駅は物産品購入が道の駅の利用において最も重要とされている。特に、にしねでは41.7%と高い値を示している。これより、規模の大きさや特性に関わらず物産品販売の場として利用者に認識されている事が明らかとなった。

②道の駅利用における重要項目に関して

4ヶ所の道の駅の利用において重要視されている項目を図-4に示す。なお、図に掲載される項目は各道の駅で10%以上を示した項目とした。

③重要項目に関する利用者の評価に関して

道の駅別に重要項目に関連する施設・機能に対する内容についての評価を行った。解析には系列カテゴリーを用い、重要項目に関連する施設・機能の内容に

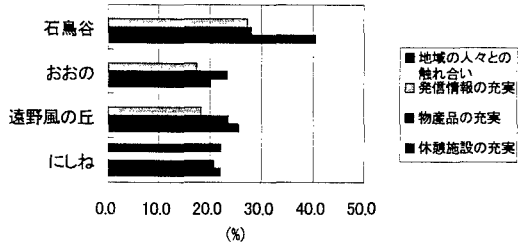


図-5 今後、改善・充実が望まれる項目

対して順位づけを行った。結果を表-2・3・4・5に示す。

これより、施設・機能の内容に関する評価は、各道の駅において同様の傾向を示した。しかし、石鳥谷のみが重要項目として情報の獲得があげられており、利用者也情報に関心をもち、その内容の評価として周辺地域の歴史・文化の紹介が一位となっている。

④今後の道の駅について

道の駅利用者が各々の道の駅に対して今後、改善・更なる充実を望む項目を図-5に示す。図-5に示されるように、休憩施設に充実と物産品の充実がすべての道の駅に求められていることがわかる。発信情報の充実がにしねを除く3ヶ所の道の駅において望まれている。石鳥谷ではどの項目においても高い値を示した。一方、にしねにおいては、他の道の駅であげられなかった地域の人々との触れ合いの場の提供が望まれている。

3. まとめ

本来、道の駅は「休憩機能」「情報機能」「地域連携機能」の拠点施設として期待されていたが、道の駅の規模の大小に関わらず利用者の意識は主に休憩・物産品購入の場として認識されている事が明らかにされた。以上の結果をまとめると以下のように示される。

①岩手県の道の駅を、風景観賞、レクリエーション、販売、歴史、体験、スポーツ、文化の7つ特性から分類することができた。

②8つの道の駅が物産品の販売に留まっていることが明らかとなった。

③道の駅の規模・特性に関わらず、道の駅利用者の目的は主に休憩、物産品購入であった。

④今後、道の駅に対する改善点としては休憩施設の充実があげられた。

参考文献

- 1) 新田慎也「東北地方の道の駅の地域振興に関する比較研究」平成10年岩手大学卒業論文
- 2) 吉田基「地域振興におけるエコミュージアムと道の駅に関する比較研究」平成10年岩手大学修士論文
- 3) 石川栄助著「新統計学」
- 4) 国土交通省道路局Webページ